



長門の話題

Topics

東北関東大震災

被災地支援に出勤します！

3月14日(月)、消防本部から消防救急隊3名が、高規格救急車に防寒具や食料を積み、東北関東大震災の被災地へ向けて出発しました。現地では10日間程度救命活動にあたりました。また、3月15日(火)、東北関東大震災の被災地で避難所などの給水活動を行うため、市役所水道課から2名、

一般職員2名の支援隊が被災地へ向けて出発しました。しかし、派遣先の福島第一原子力発電所が危険な状態になったため一時待機し、翌日の16日(水)に目的地を変更し再出発しました。現地では給水活動の他に、市が備蓄していた簡易トイレ、毛布、保存食料などの配布を行いました。



▲南野市長が被災地へ向かう消防救急隊員を激励

▼水道課職員らの出発式



被災者支援長門市市民会議発足

市民総力で被災地支援へ

3月22日(火)、東北地方太平洋沖地震に係る被災者支援長門市市民会議が長門市物産観光センターで開催され、市内105団体の代表者が出席しました。この会議は、3月11日に発生した東北関東大震災の被災地と被災者を応援し、早期の復旧につながるよう支援することを目的としています。

会議の冒頭、南野市長が、「長門市民の総力を結集して義援金や支援物資を被災地のみなさんにいち早く届けたい。皆さまの普段のご協力を」とあいさつをしました。今後の活動としては、募金活動と救援物資の受付搬送、被災者の受け入れなどを行っています。



長門の観光力を結集しよう！

(社)長門市観光コンベンション協会設立

3月3日(木)、社団法人長門市観光コンベンション協会の設立総会が市内のホテルで開催されました。これは、市内のさまざまな事業者がそれぞれで行っている観光事業や活動を一元化し、観光振興の中核的組織として現在の観光協会を発展的に観光コンベンション

ン協会として再スタートさせようというものです。総会の後に開かれた懇親会では、南野市長が、「長門の魅力の創出や情報発信に取り組み体制が整うことに大きく期待しています。観光によるまちづくりの実現に向けご尽力を」とあいさつしました。



みすみ地区社会福祉協議会が発足

あなたにできることひとつ

2月20日(日)、三隅保健センターでみすみ地区社会福祉協議会の設立記念式典が開かれました。同会は「あなたにできることひとつ」を合言葉に、地域住民が地域福祉を推進し、楽しく元気なまちづくりをするを目的に新たに設立されました。

式典で辻野達也会長は、「皆さん一人ひとりの知恵と力を合わせ、この協議会が地域づくりの一翼を担う組織になればと考えています」とあいさつしました。今後、同会では、広報紙の発行や絵本の読み聞かせなどの事業を行っていくことにしています。



地域を元気に！災害募金も

第3回YYいがみまつり

3月13日(日)、「YYいがみまつり」が油谷・伊上公民館で行われました。これは、地域を盛り上げようと伊上地区の住民で組織する実行委員会「YYいがみ」が取り組んでいるものです。伊上公民館の前の広場では、干物や野菜、焼き鳥、カレーライス、ぜんざいなど各種バザーが開か

れ、公民館の中では写真や絵画、習字などの作品が展示されていました。今年も「YYいがみ鍋」200食分が無料でふるまわれるなど多くの人でにぎわいました。会場内には東北関東大震災への募金箱が設置され、集まった義援金6万7千1円が後日市役所へ届けられました。



▲会場ようす

▼YYいがみ鍋の無料配布



古典芸能を身近に感じて

2月25日(金)、開館10周年記念狂言教室がルネッサながとで開催されました。これは、26日の「万作・萬斎狂言公演」に先立ち、狂言を身近に感じてもらうと開かれたもので、市内の4つの小学校の5・6年生と市民など約230人が参加しました。

解説と指導をしたのは、狂言界の第一線で活躍中の月崎晴夫さん。舞台上上がった8人の市民は、戸惑いながらも狂言のしぐさや声の出し方を学んでいました。会場の小学生たちも、「笑う」練習に参加し、日頃なじみのない古典芸能を体験しました。

海上交通安全祈願祭



2月27日(日)、海上交通安全祈願祭が青海島観光汽船乗り場で行われました。この祈願祭は、観光船の1年間の航海と乗客の安全を祈願するもので、祈願式には関係者ら約20人が出席しました。式の後、観光船による花津浦までの海上パレードが行われました。

介護予防市民公開講座

思いをくみ取ることから

3月12日(土)、介護予防市民公開講座「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」講演会が、長門市中央公民館で行われました。主催者としてあいさつに立った南野市長は、「本市の高齢化率は、全国平均を大きく上回っています。住み慣れた場所で安心

して暮らし続けられる一助になれば」と述べました。講演では、認知症の人と家族の会岡山県支部代表 妻井令三さんが、自らの経験をもとに、「認知症と真直面から向き合い、認知症の人や家族の思いをくみ取ることが大切です」と話しました。



楽しく走って健康づくり

2月27日(日)、旧青海島小学校周辺で、第17回青海島健康マラソンが開催されました。小学生や一般の部のほか、自分が設定した時間に近く走ることを競う「ゆつくり走ろうの部」、ペアで走ったタイムを競う「ペアの部」など12部門に206人が参加しました。



通小学校で「通鯨唄」引継ぎ式

しっかりと引き継ぎます！

3月3日(木)、通小学校で地区の伝統芸能「通鯨唄」の引継ぎ式が行われました。この式は卒業する6年生8人から下級生に通鯨唄の法被や太鼓のばちを引き継ぐもので、卒業を控えたこの時期に毎年行われています。

披露。歌い終えると、6年生の山近尚史君が5年生の内山夢美さんに法被を手渡ししました。受け取った内山さんは、「大切な伝統をしっかりと引き継げるようにがんばります」と話しました。最後に6年生が見守る中、5年生以下の在校生全員で「朝の目覚め」を元氣いっぱい歌いました。



▲鯨唄を歌う全校児童
▼法被の引き継ぎ



初期消火協力で感謝状

初期消火で被害最小限に

3月14日(月)、長門市消防本部は、初期消火に協力したとして大中文雄さん、渡邊サチ子さん、吉元英幸(工事現場代表者)さんの3名を表彰。市役所で感謝状伝達式が行われました。

大中さんは1月27日(木)、日置大内山上の自宅近くで農作

業中に建物火災を発見し、消火器具庫からホース3本を延長して消火。吉元さんは1月28日(金)、工事関係者7名と俵山湯町で民家の火災を発見し、消火器やバケツリレーで初期消火に成功。渡邊さんは、そのバケツリレーに加わり、消火活動を行いました。

▼左から大中さん、渡邊さん、吉元さん



みすゞ墓前祭に約120人が参列

空のみすゞさんへ祈り

3月6日(日)、仙崎の遍照寺で「みすゞ墓前祭」が行われ、全国各地から金子みすゞ愛好者約120人が集まりました。これは、NPO法人「金子みすゞ顕彰会」が主催で、みすゞさんの命日である3月10日の、前の日曜日に毎年開催しているものです。

墓前祭では、倉本住職によるお経が上げられる中、参列者が順番に焼香を行いました。続いて、みすゞ少年少女合唱団による「大漁」などの合唱が披露されました。その後、みすゞさんのお墓の前で読経が上げられ、全員で手を合わせ冥福を祈りました。